

やまとえんしゅうりゅう
その後の大和遠州流

ナヲのあとを継いだ娘トミは、29年間の教職生活をやめ、茶道家元として茶道の振興に努め、札幌をはじめ全道5ヶ所に家元出張所を開くとともに、全国に9支部を設立し、茶道を全国に広めていきました。

トミのもと、教授資格者は350名を超え、教えを受けた門下生は数知れないといえます。



昭和63年(1987)頃の様子

また、少年^{ほごし}保護司、家庭裁判所調停委員^{さいばんしよちようてい}、民生委員^{みんせい}、
社会教育委員など、いろいろな社会活動をしており、昭和
51年(1976)には北海道^{ほうき}訪希(ギリシャ)文化交流団^{こうりゆうだん}に
茶華道代表^{さかどう}として参加^{さんか}し、ギリシャ^{ほうもん}を訪問しています。



公民館^{こうみんかん}で開催^{かいさい}された茶会の集合写真

昭和52年(1977)には、長年の文化活動の功績こうせきから母ナ
ヲも受賞じゅしょうした留萌市文化賞しょうを受賞じゅしょうしています。

昭和62年(1987)に、甥おいで養子ようしの豊ゆたか(一豊いっぼう)に家元けげんを譲り、
それとともに大和遠州流やまとえんしゅうりゅうの本拠ほんきよを留萌から札幌さっぽろに移うつしま
した。



文化賞贈呈式しょうぞうていしきの蓼沼トミたでぬま (紫水しすい)

へいせい 25 年(2013)には、^{ゆたか いっぼう}豊(一豊)から^{むすめ のぞみ いちぼう}娘の望(一望)に
^{けいしょう}家元が^{やまとえんしゅうりゅう}継承され、大和遠州流茶道 21 代・^{せいげつりゅうせんちやどう}静月流煎茶道 4
^{せいげつあん たでぬまのぞみ}代家元静月菴の^{ゆたか}蓼沼望がナヲ、トミ、^{ねづ}豊が北海道に根付か
^{せいしん}せた茶道の精神を引き^つ継いでいます。



第 21 代家元 ^{たでぬま のぞみ} 蓼沼 望 第 20 代家元 ^{たでぬま ゆたか} 蓼沼 豊